

ILSI Japan 活動報告<88>

【部会・分科会活動報告】 2021年3,4月度

食 品 安 全 研 究 会	食品微生物研究部会	<p>分科会活動報告</p> <p>■全体</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2021年 ILSI Japan 食品微生物研究部会 第1回部会および勉強会の実施 <p>実施日：2021年3月19日（金）13:00～15:00@Zoom</p> <p>参加者：26社38名</p> <p>部会内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各分科会からの活動報告は下記を参照 ・イルシー誌に微生物部会の活動内容が掲載されることを共有 ・ILSI 会員の在籍状況を最新版にすることへの協力依頼を発信 ・次回部会は6月を予定し、勉強会講師として、篠原さん（アサヒクオリティーアンドイノベーションズ）にナノポアシークエンサー MinION を用いた微生物同定技術についてご講演いただく <p>勉強会内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・株式会社村田製作所 山崎様に「光濃縮技術を使った迅速微生物センシング」についてご講演いただいた。勉強会および部会の内容については議事録を作成し、不参加であった会員も含めメールにて共有を行った。 <p>■芽胞菌研究分科会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進捗なし <p>■MALDI-TOF MS 研究分科会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3月10日（水）にNITEとの連携協定に基づき、MALDI-TOF MS の『メンテナンス』をテーマとしてディスカッション会をオンラインにて実施。 <p>参加者：合計24名（ILSIより7社16名、NITEより7名、名城大田村先生）</p> <p>内容</p> <p>各社から日常的なメンテナンスの実施状況やトラブル事例、疑問点をご紹介いただき活発な意見交換と情報共有を実施。微生物同定の確実な実施と精度管理レベルの向上に有用な情報として、当日不参加だった分科会メンバーも含めて議事メモの共有を実施。</p> <p>■チルド勉強会</p> <p>チルド食品微生物制御に関連する2つの活動を推進中。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボツリヌス菌接種試験活動 <p>試験内容と試験費用の確定をうけ、チルド勉強会にて協賛企業を本募集中（協賛申込：～4月末の予定）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・耐熱性試験法検証活動 <p>参加企業11社においてセレウス菌耐熱性試験データ取得中（結果集約：～4月末の予定。）</p> <p>■国際整合性のある食品微生物リスク管理研究分科会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進捗なし
---------------------------------	-----------	--

	<p>食品リスク研究部会</p> <p>香料研究部会</p>	<p>・研究会トピックス「高齢者を対象とした食品の安全性評価の考え方、方法論の調査 2018年～2020年活動報告」をイルシー誌に投稿。5月号にて掲載予定。</p> <p>・「"A Natural Mistake: Why natural, organic, and botanical products are not as safe as you think" (Dr. Jim MacGregor 著)」の訳本「ナチュラル ミステイクー食品安全の誤解を解くー 自然食品, オーガニック食品, 植物由来製品はあなたが考えるほど安全ではない理由」の書籍版を出版。訳者として協力。</p> <p>購入は Amazon.co.jp からのみ。近日中に Kindle 版を発刊予定。 https://www.amazon.co.jp/dp/4904397088/ref=cm_sw_em_r_mt_dp_2819KPQF9RFS59VNHJB8?encoding=UTF8&psc=1</p> <p>特に進捗なし。</p>
A A T プ ロ ジ エ ク ト	<p>全体進捗</p>	<p>① 国際WSとシンポジウムの同時開催(21年10月予定)と情報発信および②3つの研究テーマ推進による評価戦略の構築と実装、を両輪とする活動を国立医薬品食品衛生研究所、AI-SHIPS、NITE等の多数のアカデミアや学会およびアジアやヨーロッパのILSI支部と連携しながら進めている。</p> <p>・全体会議を開催(3/15 Web)。</p> <p>各WGの進捗と今後の活動方針・計画を共有し、承認した。</p> <p>国際WS パネルディスカッション事前協議に向けた国際会議体設置に関して共有した。また、国際WS&シンポジウムのWeb開催への変更を想定した事前準備を進めることについて共有し、承認した。次回全体会議(6月)にて開催方式を決定する予定。</p>
	<p>2020 国際ワークショップ&シンポジウムWG (ILSI Europe 協働)</p>	<p>【概要】食品領域における動物実験代替について、現状の把握と進むべき方向性を議論することを目的として国際WSを限定公開(AAT 関連メンバー等)にて、さらに国際シンポジウム(公開)を同会場で開催する。なお、延期した開催時期は2021/10/21~22、会場はKFCホール両国とした。</p> <p>【進捗】WG定例会議を3/2と4/8に、ILSI EuropeとのWS Panel Discussionの進め方及びWS-Statement具体化について事前検討のキックオフ会議を3/8に開催し、会議体設置、会議体の目的、名称、参加メンバー及び日程・ロードマップを確認した。また、WSレポートを投稿予定であるが、WS演者より原稿作成の内諾を得た。座長のみ担当して頂く登壇者に招聘状(座長依頼書)の送付を完了した。さらに、WSとシンポジウムをWebにて開催するための情報(同時通訳の方法、Web配信管理等)について収集・検討を開始した。</p>

体内暴露予測 WG	<p>【概要】動物を用いないで機能性食品の摂取量を推定するためには動態の予測法開発が必須である。現在、主に、昭和薬科大学 山崎研究室の動態予測 (<i>in silico</i>) モデルの適用性を検討。<i>in silico</i>に加え、腸管膜透過に関して <i>in vitro</i> 試験を組み込んだ評価フロー案を構築した。2021 年は、① 山崎研究室の動態予測 (<i>in silico</i>) モデルの効果的活用と信頼性向上、② 予測性向上に向けた新規ツール活用、③ ケースレポート作成支援、を軸に活動する。</p> <p>【進捗】① 予測モデルの課題である難水溶性食品成分について、ヒト血中動態データを収集した。水溶解性が低い成分に絞って調査した結果、新たに 25 成分のデータを見出した。② 市販 iPS 腸管上皮細胞の活用に関して、今後の取り組み方針を整理した。また、その他の新規技術に関する開発メーカーとの打ち合わせを 2 件セッティングした (5, 6 月を予定)。</p>
データベース WG	<p>【概要】食品成分の既存毒性情報 (文献等) を収集、活用し、反復投与毒性を予測する手法、システムを開発中。独自に毒性情報を収集することも検討する。</p> <p>【進捗】2021 年にデータベースに追加登録実施予定の 150 化合物について、選定基準の検討を実施中。機能性表示食品の更新情報を確認し、新たに 10 化合物の毒性試験情報の登録を開始した。併せて食品関連の毒性成分について登録に向け情報の整理を実施中。6 月までに 35 化合物の登録を開始予定。また、2020 年までの成果を「幹細胞を用いた化学物質リスク情報共有化コンソーシアム 2021 年度年会」にて発表した。</p>
ケースレポート WG	<p>【概要】NAMs を用いた食品成分の安全性評価戦略の具体化と実装の加速を目的に、体内暴露予測 WG とデータベース WG の活動を起点に、<i>in vitro</i> assay 系を加えたリスク評価戦略の具体事例を作成し、ケースレポートとして発信する。第 1 弾のケーススタディは「肝障害」をテーマに選定。</p> <p>【進捗】肝細胞壊死等の肝障害の報告ある物質として、ピロリジンアルカロイド (PAs) をケーススタディの対象に設定。主要な PAs 30 成分について、動物及びヒトでの毒性情報調査を実施した。毒性の強さ、HESS でのデータ登録の有無、試薬の入手性等の調査結果から、2 種の PA を候補物質として選定し、ケーススタディの戦略検討を開始した。</p>
バイオテクノロジー研究会	<p>3 月 9 日に第 1 回目会議を開催 (リモート会議)</p> <p>(1) ERA プロジェクト調査報告書</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第 55 号の勉強会：10 報の論文をレビューし、意見交換を行った。 <p>(2) 報告</p> <p>以下の 4 点について報告された。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① J. Regulatory Science に掲載された組換え作物の安全性評価に関する論文の ERA 報告書での紹介について ② 遺伝子組換えナタネの ERA に関する研究成果の発表及び ILSI Japan バイテク研究会としての周知に関する提案 ③ 橋本名誉研究会長の ISO/TC34 国内対策委員会委員再任の件 ④ バイオテクノロジー応用微生物を利用して発酵生産された食品添加物・食品等の安全性審査に関する WS 準備状況 <p>(3) その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・つくば機能植物イノベーション研究センターの全国共同利用・共同研究拠点継続に関するサポートレターの件、理事長交代の件

		等について報告された。
栄 養 健 康 研 究 会	栄養研究部会	<p>1. 2021年度第2回Web部会開催(3月9日、13:00~14:30)</p> <p>① 第1回Web勉強会の運営方法について</p> <p>② 第1回から5回までのWeb勉強会の司会者、フラッシュ・レポート執筆の担当者について</p> <p>2. 第1回 栄養研究部会 Web 勉強会開催 【テーマ】「免疫のBio-marker」 (2021年3月12日金曜日、13:00~15:00、Zoom)</p> <p>【演題名と講師の先生】</p> <p>① 『感染予防のために知る「分泌型免疫グロブリン(SIgA)と運動の関係」』について: 清水 和弘 先生、独立行政法人 日本スポーツ振興センター 国立スポーツ科学センター スポーツ研究部 研究員 (13:00~14:00)</p> <p>② 『免疫機能の評価・制御と代謝物』: 山領 佐津紀 様、ヒューマン・メタボローム・テクノロジー株式会社 事業統括本部 事業開発部 部長 (14:00~15:00)</p> <p>【場所】講師の先生方は、ご自宅からご参加。 【参加人数】158名(職場や自宅から参加)</p> <p>3. 2021年度第3回Web部会開催(4月7日、15:00~17:00)</p> <p>① 第1回Web勉強会の運営方法についての反省点と今後の改善点について意見交換</p> <p>② 今後の栄養研究会の目標について意見交換</p> <p>2022年度に第10回ライフサイエンスシンポジウムを開催することにした。</p>
	GRプロジェクト	特に進捗なし。
	茶類研究部会・茶情報分科会	特に進捗なし。
C H P	Project PAN (Physical Activity and Nutrition) “身体活動と栄養”プロジェクト	<p>◇ テイクテン (TAKE10!®) ~元気で長生きのための運動・栄養プログラム~</p> <p>・令和2年度すみだテイクテン実施報告書を墨田区に提出。</p> <p>・テイクテンに準拠したミールキット(九州シェフズクラブ マンスールミールキット)のクッキング動画及び資料の制作。</p>
	Project DIET (Dietary Improvement and Education with TAKE 10!®) “途上国栄養改善と栄養教育”プロジェクト	<p>◇ 栄養改善事業推進プラットフォーム (NJPPP) 委託事業</p> <p>・ミャンマープロジェクト: 3月までの進捗について NJPPP へ報告。</p> <p>・カンボジアプロジェクト: ミネベアカンボジアでの試験が予定通り終了。30人の小規模試験であったが、前回と比較し、参加率及び栄養クイズ正答率の向上などが得られた。アンケート結果等について解析中。</p>
	CHP 全体	SDGs 貢献プラットフォーム: 4月19日の理事会にて、① プロジェクト基金連絡会からの名称変更、残額の移管、② 本プラットフォームへの参加会費額について審議の後、承認。同時に、モデルプロジェクトとして、① 国内での TAKE10!®を中心とした栄養啓発活動、② フィリピンでの栄養強化米プロジェクト、③ インドネシアでの若い人の行動変容を目指した給食事業プロジェクト、について説明。各プロジェクトへの参画候補企業と個別の相談を推進。5月の立ち上げを目指す。
	国際協力委員会	特に進捗なし。

食品機能性研究会	AI 栄養・機能性研究部会	<p>○ AI 栄養機能プロジェクト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究実務担当者会議（3/9, 4/19 Zoom）、月例会議（3/26, 4/23 Zoom）を開催。 ・本年度の研究活動として、1）NEXIS 研究からフレイル因子の抽出と栄養・運動の指導案の作成、2）デバイスの活用シナリオの作成、3）食の多様性と腸内細菌叢の関連性、4）健康長寿 AI のアプリの設計について検討することとした。 ・5月より、研究実務担当者会議を廃止し、各テーマの研究活動は月例会議で報告・討議。 <p>○ AI ダイアトロフィ研究部門</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究会（4/23 Zoom）を開催。 ・本年度の研究活動として、1）栄養と AI に関する総説を企業との共著で論文投稿、2）機器分析による代謝物の測定値を用い、アスコルビン酸のイジングモデルの精度を高める、3）KEGG の導入について検討することとした。 <p>○ 第2回基礎講座（4/23 Zoom）</p> <p>国立健康・栄養研究所の宮地元彦先生より、「NEXIS 生活習慣病一次予防に必要な身体活動量・体力基準値策定を目的とした大規模介入研究の追跡調査」と題し、NEXIS 兼研究の概要について講演をいただいた。</p>																														
情報委員会		<p>●栄養学レビュー 全体スケジュール [「ヨ」：予定]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>編集会議</th> <th>翻訳締</th> <th>監修締</th> <th>発行</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・112号</td> <td>29-3</td> <td>11/13</td> <td>1/末</td> <td>2/末</td> <td>5/10</td> </tr> <tr> <td>・113号</td> <td>29-4</td> <td>2/12</td> <td>4/末</td> <td>5/末ヨ</td> <td>8/10ヨ</td> </tr> <tr> <td>・114号</td> <td>30-1</td> <td>5/10</td> <td>7/末ヨ</td> <td>8/末ヨ</td> <td>11/10ヨ</td> </tr> <tr> <td>・115号</td> <td>30-2</td> <td>8/10頃ヨ</td> <td>10/末ヨ</td> <td>11/末ヨ</td> <td>2/10ヨ</td> </tr> </tbody> </table> <p>●通巻112号 29-3<2021年春> 対象誌：Nutrition Reviews 78(8)-78(10) ⇒11/13 編集会議 4報採択 ⇒ OUP 承認取得（1/22） ⇒翻訳原稿受領⇒監修原稿受領⇒加筆⇒初校⇒再校 ⇒再校時打合せ（3/31）⇒印刷原稿 OUP 承認取得（4/9） ⇒印刷入稿 ⇒5/10 発行</p> <p>●通巻113号 29-4<2021年夏> 対象誌：Nutrition Reviews 78(11)-79(1) 対象論文数：21 ⇒2/12 編集会議にて5論文採択 ⇒5論文とも翻訳原稿受領⇒監修依頼済み（監修締切：5月末日）</p> <p>●通巻114号 30-1<2021年秋 30周年記念号> 対象誌：Nutrition Reviews 79(2)-79(4) ⇒5/10 編集会議にて5論文採択（翻訳者選定中） 30周年記念号として表紙リニューアル（デザイン確定） 挨拶文収載予定（文案は依頼済み）</p> <p>●次回編集会議 8/10頃を予定 議題：通巻115号 30-2<2022年冬></p>		編集会議	翻訳締	監修締	発行		・112号	29-3	11/13	1/末	2/末	5/10	・113号	29-4	2/12	4/末	5/末ヨ	8/10ヨ	・114号	30-1	5/10	7/末ヨ	8/末ヨ	11/10ヨ	・115号	30-2	8/10頃ヨ	10/末ヨ	11/末ヨ	2/10ヨ
	編集会議	翻訳締	監修締	発行																												
・112号	29-3	11/13	1/末	2/末	5/10																											
・113号	29-4	2/12	4/末	5/末ヨ	8/10ヨ																											
・114号	30-1	5/10	7/末ヨ	8/末ヨ	11/10ヨ																											
・115号	30-2	8/10頃ヨ	10/末ヨ	11/末ヨ	2/10ヨ																											

	対象誌 : Nutrition Reviews 79(5)-79(7)
編集部会	<ul style="list-style-type: none"> ・「イルシー」146、147号 編集 ・「イルシー」148、149、150号 掲載内容検討・執筆依頼

【事務局からのお知らせ】

理事会	<p>第3回理事会が令和3年4月19日（月）に開催された。</p> <p><決議事項></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. プロジェクト基金連絡会を SDGs 貢献プラットフォーム基金へ移管 新たに CHP 代表に就任した山口隆司氏より資料に基づき説明し、承認された。 2. 理事の選任、退任 新任として国立健康・栄養研究所長の津金昌一郎様、花王（株）執行役員 下豊留（しもとよどめ）玲様の選任と阿部圭一理事の退任が承認された。 <p><承認事項></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. AATプロジェクト JaCVAM（日本動物実験代替法評価センター）ステークホルダー会議への参加 事務局が資料に基づき説明し承認された。 2. 栄養研究部会 第10回ライフサイエンスシンポジウム 2022年開催の上記シンポジウムの背景、開催目的、開催日程・方法、プログラム委員会候補者案、今後の日程について事務局が説明し承認された。 3. バイオテクノロジー研究会 ERA ワークショップ開催 背景、目的、主催者、参加対象、開催時期、演者と講演内容、開催方法、予算等の案を事務局が説明し承認された。 <p><報告事項></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本部動向 事務局より資料に基づき説明した。 2. 事務局長の交代 6月1日付で事務局長が中村英世氏から辻本信晴氏へ交代すると事務局から説明した。
総会	
事務局	4月1日に 辻本信晴氏が味の素（株）より事務局次長に就任。山口隆司氏 CHP 代表に新たに就任。取出恭彦氏 CHP 代表を退任。